14. 住宅用火災警報器･自動火災報知設備

（1）住宅用火災警報器

住宅用火災警報器が設置されている住宅があります。

住宅用火災警報器が正常に作動するためには維持管理が重要となります。物をぶつけたり、分解したりしないでください。また、シールの貼り付けや塗装をしないでください。

◆住宅用火災警報器が汚れたら◆

台所などに取り付けた場合、油や煙などにより汚れが付着することがあります。家庭用中性洗剤を浸して十分絞った布で軽くふき取ってください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。また、故障の原因になりますので水洗いは絶対にしないでください。

◆定期的に作動確認が必要です◆

取扱説明書をよくお読みのうえ、住宅用火災警報器本体から下がっている引きひもを引く、またはボタンを押すなどにより、定期的に作動確認を行いましょう。また、長期間住宅を留守にしたときも、作動確認をしましょう。

※作動試験をしても警報が鳴らない場合や突然に警報が鳴ってしまう場合には、管理サービス事務所または住まいセンター等へ連絡してください。

◆火災以外でも鳴ってしまう場合があります◆

火災以外でも、住宅用火災警報器は次のような場合に鳴ってしまうことがあります。その場合は、室内の換気をするか警報音を止めてください。警報停止ボタンを押すか引きひもを引くと警報音が一時的に停止します。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

●調理の煙や湯気などが警報器にかかったとき
●スプレー式殺虫剤、ヘアスプレーなどが直接かかったとき
●たばこの煙を警報器に吹きかけたとき
●燻煙式殺虫剤などの煙を発生させた とき
●煙感知部にホコリや虫が入ったとき

作動確認および警報音停止の操作方法の例

（2）自動火災報知設備

UR 都市機構では、消防法に基づき、一部の住棟に自動火災報知設備が設置されています。火災発生時には火災感知器が熱や煙を感知し、この火災信号を受信機が受けることで警報音が鳴り、火事の発生を知らせます。

●団地や住棟により、自動火災報知設備の内容は異なりますので、ご自身の住棟の設備内容を取扱説明書等によりご確認ください。
●火災信号を受信した場合は、火災かどうかを確認するまでは警報音を停止しないようにお願いします（停止ボタンを押すと警報音は停止します。また、住宅情報盤で警報音を停止すると玄関にあるインターホン子機の警報音も停止します）。誤報時の対応がわずらわしい等の理由から音声やベルを停止状態にすることは危険です。